

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 15 日現在

機関番号：25407

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25381144

研究課題名(和文) ASEAN新興国におけるクロスボーダー高等教育の展開と地域統合に関する研究

研究課題名(英文) Study on cross-border higher education in emerging ASEAN countries and regional integration

研究代表者

上別府 隆男 (KAMIBEPPU, Takao)

福山市立大学・都市経営学部・教授

研究者番号：50350707

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：2015年末のASEAN経済共同体発足による域内自由化加速の流れは、学生・労働者・資格の移動を促し、地域の高等教育調和化を後押ししている。この調和化は、技術面(学位、単位など)で各国の多様性尊重の上で進められてきているが、政治面(大学自治や言論の自由など)では各国の政治体制の違いから多くの困難がみられる。ベトナムは国の政治体制を維持しながらグローバル化に対応する必要があるため外国モデル大学の設置を進める一方、ミャンマーは、硬直した中央集権的制度や人材・インフラの不足が国際的活動を阻害する要因になっており、国際的な活動を促進するためには国内の高等教育改革がまず必要であるというジレンマを持つ。

研究成果の概要(英文)：The formation of ASEAN Economic Community at the end of 2015 accelerated the intra-regional mobility of people (students and workers) and qualifications, and the higher education harmonization. This harmonization process values the diversity of higher education systems in ASEAN member states country, but the differences in political systems make it difficult to move for effective integration and harmonization.

Vietnam moves to establish foreign model universities to respond to globalization while maintaining their political system. In Myanmar, international activities are impeded by the rigid top-down political system and the shortage of human resources and infrastructure, which creates a dilemma that domestic higher education reform is a prerequisite to enhanced international activities.

研究分野：国際高等教育

キーワード：ベトナム クロスボーダー高等教育 留学生 地域統合 国際開発 国際化 ミャンマー ASEAN

1. 研究開始当初の背景

アジア地域における地域統合の動きとしては、東アジア共同体や ASEAN 共同体が挙げられるが、1967 年に発足し現在 10 の加盟国を抱える ASEAN は 2015 年末に ASEAN 経済共同体を発足させ、地域統合を進めている。ASEAN は政治経済体制、宗教などの面で非常に多様な国々の集合体であるが、統合に資する人材育成のため様々な取組みを行ってきており、人材育成の中核となる高等教育分野においても、ASEAN 大学ネットワークやアジア太平洋大学交流機構などが域内の学生流動性の拡大のための活動を推進している。

しかし、ASEAN 後発組であるカンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム (CLMV) は地域の様々な交流枠組みに参加しているものの、高等教育の量と質の不足により、頭脳流出が深刻である一方、大学の急増により質の低下がみられる。この CLMV の状況は ASEAN 域内大学間交流の拡大にとっての重要な懸案となっているため、域内の格差是正、協調的発展のためにも、CLMV は各国の事情に応じたクロスボーダー高等教育に関する政策・ルールの確立を必要としている。

研究代表者は、これまで、地域統合・域内格差是正と人材育成に関し、2003-04 年度科研費基盤研究 (C) 「ベトナムの基礎教育政策形成における援助機関の役割に関する研究」において基礎教育分野における援助協調の視点から、また 2007-08 年度に参画した ASEAN 本部事業「カンボジア、ラオス、ミャンマーの研究開発促進のためのインセンティブ枠組み策定プロジェクト」においては大学・研究機関の研究能力開発の観点から調査を行った。その後研究代表者として受託した 2008 年度文部科学省・先導的大学改革推進委託事業「アジア・太平洋地域における大学間交流等の拡大についての調査研究」では、欧州及び ASEAN + 3 (日中韓) における実地調査に基づき、アジア・太平洋地域における高等教育

レベルの学生移動の活性化に向けた方策 (アジア版エラスムス計画) を文部科学省に提言した。そしてそれを発展させた、2009-11 年度科研費基盤研究 (C) 「アジア・太平洋地域における学生流動性向上のための枠組みに関する研究」においては、ASEAN の留学生政策における国益と「地域益」との乖離を指摘し、2009 年度文部科学省・先導的大学改革推進委託事業「ACTS (アセアン単位互換制度) と各国の単位互換に関する調査研究」では、ASEAN + 3 の高等教育制度の本格的なデータ収集・整理 (ベトナム・フィリピン担当) に参画した。

以上の調査研究の経験の中で、ASEAN のクロスボーダー高等教育と地域統合においては、拡大する経済格差、偏りのある学生交流、先進国との「協力」や「機会」という名の下での頭脳流出、宗教・政治経済体制の違いによる方向性のズレなど様々な課題を抱えていることを強く認識したことから、本研究を着想するに至ったものである。

2. 研究の目的

本研究は、世界各地域で地域統合や高等教育の国際化・調和化が急激に進む中、その 1 地域である ASEAN の統合・高等教育調和化の動きに注目し、ASEAN 新興国である CLMV において現在活発化しつつあるクロスボーダー (国境を越える) 高等教育の実態を把握し、地域統合の文脈の中でのその課題と可能性を探るものである。ASEAN 統合の流れの中で、途上国の能力開発と高等教育の国際化において常に問題となる頭脳流出を最小限に抑え、アクセス拡大と質向上のバランスを取りながら高等教育を発展させるために必要な国の具体的方策、外国の教育プログラム・機関の出現に対する規制や質保証の在り方、また海外からの支援の在り方の枠組み (資源やアプローチの選択など) の提示が研究の目的である。

具体的には、以下の 5 点を明らかにするこ

とを目的とした。

- (1) CLMV 各国におけるクロスボーダー高等教育のデータ（人の移動、教育プログラムの移動、教育機関の移動）。
- (2) 受入国や提供国は、クロスボーダー高等教育を、どのような状況下で、どのような目的のために奨励すべきか。各国の経済発展段階やその他の状況に応じたシステムは何か（開発援助、高等教育機関間の提携、あるいは教育サービスの提供という貿易か）、また、形態は何か（学位留学、交換留学、共同・二重学位、または海外ブランチキャンパスか）。
- (3) 教育プログラムが国境を越えた場合、各国のプログラムや提供者の質保証や適格認定にどのような影響があり、整備されるべき規制・ルールの枠組みはどのようなものか（国内と海外の二元的なものか一元的なものか）。政府機関、高等教育機関、国際機関の役割。
- (4) クロスボーダー高等教育は、調査対象国で、頭脳の流出や流入をどのように促進あるいは抑制するのか。国内の高等教育アクセス拡大と質改善の間でバランスを取りながら、頭脳流出を抑え、能力開発を進めるにはどうすればいいのか。
- (5) クロスボーダー高等教育を促進する地域大学間協力・交流の機関・ネットワークが 4 カ国を効果的に地域統合に巻き込み、域内の格差を是正し、協調的な発展に必要な方向性、メカニズム、人的・財的資源は何か。

3. 研究の方法

今回の調査では質的データを重視し、対象国の政府・非政府機関、地元及び外国の高等教育機関、主要ドナー（二国間・多国間）、その他教育交流機関などに対しアンケート調査やヒアリング調査を行い、クロスボーダー高等教育及び地域統合についての現状・考え方を把握した。1 年目（平成 25 年度）は、

まず、研究メンバー間において、研究計画・分析枠組みの共通理解、世界各地域におけるクロスボーダー高等教育の展開及び地域統合の動向に関する先行研究の分析を行うとともに、ベトナムとミャンマーに関し、日本国内外での研究会参加や関係者へのヒアリングなどにより、高等教育改革やクロスボーダー高等教育に関する情報を収集した。2 年目（平成 26 年度）は、クロスボーダー高等教育に関する調査をミャンマー、ベトナム、カンボジアで行った。3 年目（平成 27 年度）は、米国において、クロスボーダー高等教育の世界展開、欧州・アジア地域統合、ASEAN 新興国への支援方針などに関するヒアリング・資料収集を行った。最終年度の平成 28 年度は、研究成果発信に重点を置いた。

4. 研究成果

2015 年末の ASEAN 経済共同体発足による「ヒト・モノ・カネ・コト」の域内自由化加速の流れは、学生・労働者・資格の移動を促すとともに、地域の高等教育調和化を後押ししている。この調和化は、技術面（学位構造、単位制度・単位互換制度、成績評価制度、学年暦、質保証制度、資格枠組み、論文引用索引構築など調和化ツールの導入・浸透など）で各国の多様性尊重の上で進められてきている。

ベトナムは ASEAN 第 3 の人口（約 9,300 万）を持ち、経済成長に伴い若年層と中間層が増加し、大学進学率・卒業率が上昇中である。日本を含む先進国・新興国は、自国の少子化や労働力不足からこの人材が豊かなベトナムに注目し、ベトナム留学生の自国への受け入れや外国モデル大学設置によるベトナムの学生（将来の労働力）を獲得するという動きが活発になっている。ベトナムは、1980 年代に共産主義を維持しながら市場経済体制に移行した後 1990 年代に ASEAN に加盟した後発国である。地域の多様な調和化枠組みに参加しているものの、過去に諸外国から受けた強い影響や人的財的資源の制約から、国の

政治体制を維持しつつグローバル化に対応する必要があり、自国の高等教育の供給力と競争力強化のため、量的拡大とともに質的改善にも力を入れている。また、調和化の政治面(大学自治や言論・集会の自由の保証、社会主義型からアングロサクソン型への大学変容など)においてもベトナムは様々な課題を抱えている。

一方、ミャンマーに関しては、同国の高等教育の改革は、2011年の民政移管、2016年の民主化政権発足により起きている民主化・市場経済化・国際化など様々な構造的変化の中、与党と野党のせめぎ合いを核として、非常に速いテンポで進んできている。多くの潜在力・可能性も見られるが、同時に改革を進めるにあたっての課題も山積である。急激な改革は却って政治的対立を招くリスクがあるとの指摘もある中、過去30年の実践と伝統を踏まえた改善策や、国際化を伴いながら高等教育改革を行うに際しての妥当なスピードなどの検討が必要である。政権側とそれに対する野党や反対派学生の間歩み寄りの鍵となるのは信頼の回復、醸成である。いわば、ポリティクスを健全化し、透明性のある協議・決定過程を確保することが必要であり、これがステークホルダーの一定の納得につながると思われる。また、高等教育の国際化は、高等教育改革の手段及び目的として位置付けられている。手段としては、管理運営、教育内容・方法、質保証などの高等教育の諸側面の改善のための国際的支援(教職員の能力開発、学生交流、共同学位連携、海外大学誘致など)、目的としてはアセアンなど国際的な枠組みへの互惠的関与や大学の国際標準化などが挙げられている。しかし、硬直した中央集権的制度や高等教育人材・インフラの不足は国際的活動を阻害する要因になっており、国際的な活動を促進するためには国内の高等教育改革・調和化がまず必要であるというジレンマが存在する。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計6件)

Takao Kamibeppu and Roger Y. Chao, Jr.,
“Higher education and Myanmar's
economic and democratic development”,
International Higher Education,
Boston College, (88) 19-20、査読有、
2017年1月

上別府隆男、「中東欧の体制移行国におけるボローニャ・プロセスと高等教育改革」、福山市立大学都市経営学部紀要『都市経営』、(8) 65-73、査読無、2015年12月

上別府隆男、「バングラデシュの高等教育 - 伝統と国際交流 -」、日本学生支援機構ウェブマガジン『留学交流』、査読有、(51) 59-66、2015年6月

上別府隆男、「新生ミャンマーにおける高等教育改革の課題と可能性：ポリティクス、自治権と国際化」、広島大学国際センター紀要、(5) 5-18、査読無、2015年3月

上別府隆男、「ミャンマーの高等教育 - 「民政」下の改革 -」、日本学生支援機構ウェブマガジン『留学交流』、(44) 25-31、査読有、2014年11月

上別府隆男、「日本の高等教育国際化における政策と実践の相互作用：学生流動性に着目して」、東京女学館大学紀要、39-54、査読無、2014年3月

[学会発表](計18件)

Takao Kamibeppu, “Higher education reform for global competitiveness in Japan”, 米国比較国際教育学会第61回大会、2017年3月7日、アトランタ(アメリカ)

上別府隆男、「高等教育の地域調和化の動きと参加国へのインパクト - EU と ASEAN を比較して -」、日本評価学会第

17 回全国大会、2016 年 11 月 26 日、広島大学（広島県東広島市）

上別府隆男・荒木義宏、「ミャンマーにおける高等教育と産業人材育成の課題と可能性」、福山市立大学教育研究交流センター公開講座、2016 年 10 月 15 日、福山市立大学（広島県福山市）

Takao Kamibeppu, “Blurring boundaries between higher education and vocational education: The cases of Japan and Vietnam”, 2016 年アジア・ヨーロッパ会議(ASEM)生涯学習フォーラム:21 世紀型スキル、2016 年 10 月 4 日、オーフス大学デンマーク教育大学院 (ASEM LLL Hub)、コペンハーゲン（デンマーク）

上別府隆男、「ミャンマーとインドの海外留学動向と日本の位置づけ」、日本比較教育学会第 52 回大会、2016 年 6 月 26 日、大阪大学（大阪府吹田市）

上別府隆男、「中東欧の体制移行国におけるポローニャ・プロセスと高等教育改革」、日本高等教育学会第 19 回大会、2016 年 6 月 25 日、追手門学院大学（大阪府茨木市）

Takao Kamibeppu, “Facilitating reform by weakening autonomy: the changing relationships between the government and universities in Japan as seen in recent initiatives for global competitiveness”, UNIKE Conference: University Futures、2016 年 6 月 16 日、オーフス大学デンマーク教育大学院、コペンハーゲン（デンマーク）

Takao Kamibeppu, “Global influences on the internationalization of higher education in Japan: The roles of Europe, ASEAN and the United States”, 米国比較国際教育学会第 60 回大会、2016 年 3 月 8 日、バンクーバー（カナダ）

上別府隆男、「ミャンマーとバングラデシュの高等教育におけるポリティクスの役割比較」、日本比較教育学会第 51 回大会、2015 年 6 月 13 日、宇都宮大学（栃木県宇都宮市）

Takao Kamibeppu, “Comparison of student politics policies in higher education in Myanmar and Bangladesh”, 米国比較国際教育学会第 59 回大会、2015 年 3 月 12 日、ワシントン DC（アメリカ）

Takao Kamibeppu, “Global influences on the internationalization of higher education in Japan: The role of the Bologna Process and other European initiatives,” Universities in the Knowledge Economy (UNIKE):

Perspectives from Asia-Pacific and Europe、2015 年 2 月 12 日、オークランド大学、オークランド（ニュージーランド）

上別府隆男、「ミャンマー高等教育改革を巡るポリティクス」、国際開発学会第 25 回全国大会、2014 年 11 月 30 日、千葉大学（千葉市）

上別府隆男・二宮皓、「ミャンマーにおける高等教育改革と国際化」、日本比較教育学会第 50 回大会、2014 年 7 月 12 日、名古屋大学（名古屋市）

Takao Kamibeppu, “Internationalization policy of higher education in Japan: Analysis from multiple perspectives”, 第 1 回グローバル高等教育会議、2014 年 5 月 17 日、レイクランド大学ジャパン・キャンパス（東京都新宿区）

Takao Kamibeppu, “Internationalization policy of Japanese higher education: Analysis from multiple perspectives”, 米国比較国際教育学会第 58 回大会、2014 年 3

月 14 日、トロント大学、トロント(カナダ)

上別府隆男、「日本の国際教育援助（協力）政策の歴史的展開 - 戦後から今日まで - 」、国際開発学会第 24 回全国大会、2013 年 11 月 30 日、大阪大学（大阪府吹田市）

Takao Kamibeppu, “ Effects and influences of the Bologna Process on Japan and beyond, ” The External Dimension of the Bologna Process、2013 年 10 月 9 日、ドイツ学術交流会(DAAD)、ドレスデン(ドイツ)

上別府隆男、「アセアン新興国におけるクロスボーダー高等教育の可能性と課題：ベトナムを事例として」、日本教育社会学会第 65 回大会、2013 年 9 月 21 日、埼玉大学（さいたま市）

〔図書〕(計 1 件)

Takao Kamibeppu, “ Chapter 10: Global Influences on the Internationalization of Higher Education in Japan: The Role of the Bologna Process and Other European Initiatives ”, In *Asia: The Next Higher Education Superpower?* (Eds. Bhandari, R. & Lefebure, A.), Institute of International Education, 2015 年 3 月, 184(分担箇所 161-174)

6 . 研究組織

(1)研究代表者

上別府隆男 (KAMIBEPPU、Takao)
福山市立大学・都市経営学部・教授
研究者番号：50350707